

平成27年度施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	1131	施策名	公共交通を利用しやすいまち	主 担 当 課	企画政策課
大項目	安全で快適なまちづくり				
基本 方針	市民や笠岡市を訪れる人にとって、分かりやすく、利用しやすい公共交通体系を構築します。 市内中心部の医療・商業施設などと周辺地域を結ぶ公共交通は、市民の生活を支える重要な手段 であり、将来にわたって利用できるようにするため、持続可能な公共交通体系を構築します。 「地域公共交通活性化及び再生に関する法律」に基づき策定した笠岡市地域公共交通総合連携計 画は、状況の変化を踏まえつつ、目標の実現を目指します。			関 係 課	都市計画課

<2.施策を構成する事務事業の概要>

1	陸上交通事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
マイカーなどによる移動手段を持たない人など市民		バスや鉄道などの公共交通を必要としている人など市民の移動手段を確保する。		・路線バス、デマンド型乗合タクシー、過疎地有償運送の運行に要する経費への補助金を支出する。 ・井原鉄道の基盤設備の維持に要する経費への補助金を支出する。 ・公共交通に関する意識啓発、利用促進を図るとともに、必要に応じて運行ルート・ダイヤの見直しを行う。								
平成23年度		平成24年度			平成25年度			平成26年度				
取組内容	●補助金交付 ●デマンド型乗合タクシーの試行 ○過疎地有償運送の維持		●補助金交付 ●運行ルート、ダイヤの見直し ●デマンド型乗合タクシーの運行 ○過疎地有償運送の維持			●補助金交付 ●運行ルート、ダイヤの見直し ●デマンド型乗合タクシーの運行 ○過疎地有償運送の維持 ○バスターミナル等整備工事 ○路線バス調査事業			●補助金交付 ●ダイヤの見直し ●デマンド型乗合タクシーの運行 ○過疎地有償運送の維持 ○乗り場環境の改善			
	決算額	31,572	千円	決算額	74,686	千円	決算額	316,107	千円	決算額	54,651	千円
直接事業費	うち一般財源	31,072	千円	うち一般財源	74,186	千円	うち一般財源	207,509	千円	うち一般財源	32,598	千円

2	離島航路事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
・旅客船を利用する人 ・旅客船で運搬される生活必需品		島しょ部と本土を結ぶ唯一の生活航路を維持し、島民の生活の安定と利用者の利便を確保する。					・国庫補助対象航路へ補助金を支出する。 ・運行事業者と連携して利用促進を図るとともに、必要に応じて運行ルート・ダイヤの見直しを行う。					
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
取組内容	●補助金交付 ●統合後の新航路で運航 ●運行ルート、ダイヤの見直し			●補助金交付 ○航路関連施設の整備			●補助金交付			●補助金交付 ●ダイヤの見直し ●港の乗り場環境改善		
直接事業費	決算額	8,440	千円	決算額	31,015	千円	決算額	10,177	千円	決算額	12,495	千円
	うち一般財源	8,440	千円	うち一般財源	21,015	千円	うち一般財源	10,177	千円	うち一般財源	10,095	千円

<3.施策の直接事業費(2の合計)>

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
直接 事業費	40,012	千円	105,701	千円	326,284	千円	67,146	千円
うち 一般財源	39,512	千円	95,201	千円	217,686	千円	42,693	千円

<4.指標>

指 標 名				目標・実績の推移					
				H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H29 目標
1	公共交通の利便性の向上に対する満足度 (市民意識調査)	単位	目標				—	△ 33.0	△ 31.0
		%	実績	△ 35.9	—	△ 34.0	—	△ 30.1	
			達成率					109.6%	
2	公共交通を利用している市民の割合 (市民意識調査)	単位	目標				—	20.0	30.0
		%	実績	18.9	—	18.5	—	18.5	
			達成率					92.5%	
3	笠岡市関連の路線バスの輸送人員	単位	目標				442,000	442,000	442,000
		人	実績	629,797	611,034	577,317	495,427	449,880	
			達成率				112.1%	101.8%	
4	定期旅客船航路の輸送人員	単位	目標				155,000	150,000	140,000
		人	実績	160,191	173,226	161,209	177,468	168,331	
			達成率				114.5%	112.2%	

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
・循環ミニバス、低額運賃等による利便性の向上が必要と考えられます。	→ 新たな運行形態や運賃設定については、地域公共交通活性化協議会等で協議を重ね、利用促進が図れるようバス事業者と検討してまいります。
・路線バス等への補助金を少なくするように、計画的に施策を考えていただきたい。	→ 待合環境の向上や利用促進施策の実施、効率的な運行(航)の推進によって補助金の縮減に努めてまいります。また、公共交通の維持確保に係る国庫補助制度の積極的な活用も図ってまいります。
・バス路線維持に対し、よく努力なされていると思う。市民の公共交通を利用する意識が高まるよう努力してください。	→ バスの乗り方教室や写生イベントの開催などの利用啓発をはじめ、アンケート意見でも要望の多い待合環境の整備を進めてまいります。また、交通安全フェスティバル等へも出展し、多くの人に公共交通に対する意識向上を図ってまいります。
離島航路に関しては、市民がもっと積極的に利用できるように、各企業への補助を笠岡市が行うべきではないかと思ひます。笠岡市民の利用が少ないと思ひます。郷土を知る事は必要だと思ひます。笠岡諸島を利用する理由を市や地元企業が作るべきだと思ひます。	→ JRのデスティネーションキャンペーンなどの機会を捉え、市民をはじめとした利用促進施策の実施を検討してまいります。また、市内小学生が北木島宿泊研修所で活動をする際には、基本的に定期航路の利用を推進してまいります。

<6.平成26年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.施策の課題と改善案>

課題と改善案	(施策の課題) ・路線バス、デマンド型乗合タクシー利用者の減少に歯止めがかからない。 ・路線バス利用者の減少により運行主体の収益が低下することで、維持するための補助金交付額が増加している。 ・航路維持のため、島外からの航路利用者の増加及び効率的な運航と利便性の確保。 (改善案) ・路線バス運行事業者と連携し、市民に公共交通に親しみを感ぜてもらえるよう、意識啓発、利用促進に資する取組を行う。 ・路線バスのダイヤ変更によるJR、井原鉄道との接続性を高め、利便性の向上を図る。 ・島外からの航路利用者を増やし、航路の持続的な維持を図るため、運航事業者や観光部門との連携のもと、島しょ部のイベントなどを利用し、情報発信を充実させる。 ・航路利用者数の推移を考慮しながら、運航事業者との緊密な連携のもと、運航ルートやダイヤの継続的な見直しを行う。
--------	---

<8.委員による評価結果>

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果 (前期4年間の総合評価)	B
コメント	・公共交通の利便性(たとえば、オンデマンド型)を向上させ、輸送人員の増加を図る必要があると考えられます。 ・駅前の表示、路面案内等、港までの行く先案内がされ、分かりやすくなった。地下道南口から港の待合所までの案内に工夫が必要である。			